

「やった！内柴選手金メダル！」応援の声、北京に届いた！

8月10日、「内柴先輩ファイトです！」「内柴がんばれ！」と割れんばかりの応援が就業改善センターに響きました。北京オリンピック柔道66キロ級に出場した一の宮中学校出身の内柴正人選手を応援するため設けられた特設会場。ここに予選開始の午後1時から後援会の皆さんはじめ同級生や後輩にあたる一の宮中学柔道部の部員、市民、約200人がつめかけ、夜8時過ぎの決勝戦までハチマキ締めで中継を見ながら応援しました。

決勝戦では全員が祈る思いで映像を見つめ、内柴選手が見事一本勝ちで金メダルを獲得した瞬間みんな飛び上がり2連続金メダルの快挙を喜びました。



優勝した瞬間の応援特設会場での様子

内柴選手のお父さんが市民の皆さんへお礼



「皆さんの応援が北京まで届きました。お礼を言いたい」と内柴選手のお父さん孝^{たかし}さんが8月12日、阿蘇市役所を訪れました。

第一声に市長が「2連覇おめでとうございます」と偉業を讃え握手を交すと、これに孝さんは「阿蘇市は正人にとって第2のふるさとです。下宿先をはじめいろんな方々にお世話になり育てていただいたおかげで今の正人があります。市民の皆さん本当に応援ありがとうございました」と感謝を述べられ、挫折もあった4年間の苦労や努力、試合本番の様子などを話されました。北京まで同級生が応援に来てくれたことも大変喜ばれていました。



市長と握手を交わす内柴選手のお父さん(右)

広域消防本部が山岳遭難事故救助訓練



遭難者を救助する県防災消防ヘリコプター

ているところを救助犬が発見し、県防災消防ヘリコプター「ひばり」に出場を要請し、山岳救助隊が救助するという想定のもと本番さながらの訓練が行われました。

8月20日、山岳遭難事故救助訓練が狩尾の長寿ヶ丘で行われ、阿蘇広域行政事務組合消防本部山岳救助隊や阿蘇警察署、県防災消防航空隊の隊員ら30名と今年初めてNPO法人九州救助犬協会の救助犬2頭「カンナ・リンダ」も参加しました。

北外輪山に山菜取りに出掛けた男性が行方不明となり、長寿ヶ丘北側に転落し



訓練に参加した救助犬